日本産業教育学会
産業教育学会若手研究者部会

第１回研究会　報告集

2017 年 3 月 4 日（土）～3 月 6 日（月）
於　京都府立大学

⑴「博士論文の構想と現在までの研究成果の報告」
井上真求（京都府立大学大学院 D2）　…2
⑵「高等教育政策における職業教育重点化構想の特質と課題」
小田茜（福岡大学大学院 D1）　…4
⑶「中国における中等職業教育のキャリア教育－天津市の事例を焦点に－」
朴雪梅（千代田短期大学 非常勤講師）　…8
⑷「『職業指導』『特別活動』の授業実践報告」
瀧本知加（東海大学熊本教養教育センター）　…18

博士論文の構想と現在までの研究成果の報告

公共政策学研究科　福祉社会学専攻
博士後期課程２年　井上真求

博士論文のタイトル（仮）

後期中等教育段階における職業教育および専門教育の現状と課題
―高校再編のなかでの職業科の意義と展望―

1. 研究の意義と目的

高度経済成長期に機能していた日本独自の雇用慣行が崩壊し、非正規雇用の若者や無業者、フリーターなどが増加している。これらは青年の「学校から社会への移行過程」の問題として捉えられ、学校教育において職業教育・訓練を担保する仕組みの構築の必要性が認識されてきている。

後期中等教育段階において、生徒の職業選択の力量形成は基本的な役割の一つである。あわせて具体的な職業準備教育も必要である。欧州など複線型の学校体系は、中等教育段階で「大学進学のための教育を行う学校」と「社会に出て就業するための職業教育を行う学校」とに分岐する。しかし、戦後単線型を導入した日本の教育制度は、結果的に前者の教育を重視することとなった。そのため、後期中等教育は大学準備教育としての性格を強め、職業準備教育は形骸化したまま今日に至っている。青年に対して有用な職業準備教育あるいは職業教育を施すことは、今日の後期中等教育にとって重要な課題である。なかでも職業高校は、戦後一貫して職業教育を担ってきた。社会が変化するなかで、これら職業高校が果たしてきた役割を評価することが、これからの日本の職業教育のあり方を示す一つの指針となると考えている。

本研究は、①日本の職業教育体系やその制度的基盤の歴史的変遷のなかで、統廃合や多様化がすすむ高校における職業教育の実態を明らかにすること、②その際、とくに水産・工業・農業など伝統的な高校職業科の変遷に着目すること、③これらを通じて、高校職業教育の制度的基盤を構築するための条件を解明することを目的とする。

この分野の先行研究としては、佐々木享や原正敏、あるいは乾彰夫などの研究を挙げることができる[1]。これらの研究は、高校職業教育の実態や構造、制度的基盤そのものに焦点を当て、広い視野から高校職業教育を位置づけたものである。しかし、彼らの研究は 1990 年代以前のものである。バブル経済が崩壊して以降、日本社会は大きく変容した。佐々木らの研究は、今日的な情勢のもとで課題分析を行ったものではない。確かにこの間、特定の職業高校の実態を調査した事例研究や歴史研究、あるいは比較研究などの分野においては、寺田盛紀や佐々木英一などによる優れた業績がみられる[2]。しかし、これらは特定の分野に限定した個別研究にとどまっている。つまり、今日の高校職業教育の実態と課題について総合的に論じた研究業績は意外なほど少ないのが実状である。

---

[1] 代表的な先行研究として、佐々木享『高校教育論』大月書店、1976 年、『高校教育の展開』大月書店、1979 年、原正敏『現代の技術・職業教育』大月書店、1987 年、乾彰夫『日本の教育と企業社会―一元的能力主義と現在の教育＝社会構造』大月書店、1990 年、などが挙げられる。

[2] たとえば、佐藤武雄ら編著『工業高校の挑戦―高校教育再生への道』学文社、2005 年、佐々木英一『ドイツに
[2] たとえば、佐藤武雄ら編著『工業高校の挑戦―高校教育再生への道』学文社、2005 年、佐々木英一『ドイツに
おける職業教育・訓練の展開と構造―デュアルシステムの公共性の構造と問題性』風間書房、1997 年、寺田盛紀『近代ドイツ職業教育制度史研究―デュアルシステムの社会史的・教育史的構造』風間書房、1996 年、などが挙げられる。

他方で、教育社会学においては、苅谷剛彦や本田由紀に代表されるように[3]、近年の調査データに基づく、学歴・階層・意欲と職業生活への移行の関係についての実証的研究が多様に行われている。しかし、これら教育社会学の研究は、後期中等教育における職業資格あるいはカリキュラムを具体的に展望するような職業教育の実態を明らかにする研究ではない。

本研究は、以上の先行研究を踏まえて、後期中等教育の実態にそくして、後期中等教育段階における職業教育の現状と課題を考察しようとするものである。

2. 全体構成

序章（未定稿）

第 1 節　「学校から社会へ」―日本の職業教育の課題―

第 2 節　高校職業教育の展開と現状

第 3 節　公的職業教育・訓練機関としての高校職業教育

第 4 節　本研究と先行研究

第 5 節　研究課題と方法

第 1 章　戦後の職業教育（未完）

第 2 章　近年の高校改革と高校職業学科の変容
―都市圏の高校教育改革における職業学科の現状と課題―

※参考：井上真求「都市圏の高校教育改革における職業学科の現状と課題―東京都・大阪府の高校職業教育改革をめぐって―」『福祉社会研究』第 17 号、2017 年 3 月

第 3 章　高等学校職業学科における学科名称の多様化とその問題点

※参考：井上真求「高等学校職業学科における学科名称の多様化とその問題点―後期中等教育段階における職業教育の発展のために」、『福祉社会研究』第 16 号、69-84 頁、2016 年 3 月

第 4 章　水産高校の教育内容および進路状況の現状と課題

※日本産業教育学会の学会誌へ投稿予定（2017 年 2 月末投稿〆切）

第 5 章　工業高校の教育内容および進路状況の現状と課題（未完）

第 6 章　農業高校の教育内容および進路状況の現状と課題（未完）

終章（未完）

3. 仮説

本研究を通して次の 4 点が明らかになると考えている。

①普通教育と専門教育を施すという戦後高校教育の理念を堅持することの重要性

②高校卒業後に就職するルートを確保する必要性があること

③専門学校・大学・大学校・公的職業訓練機関などとの関係の整理と、これらへの継続教育としての高校職業教育のあり方

④職業資格制度を確立する必要性があること

[3] 代表的な研究として、苅谷剛彦『学校・職業・選抜の社会学―高卒就職の日本的メカニズム』東京大学出版会、1991 年、本田由紀『教育の職業的意義―若者、学校、社会をつなぐ』ちくま新書、2009 年、などがある。

高等教育政策における職業教育重点化構想の特質と課題

福岡大学大学院 人文科学研究科 博士課程後期１年　小田 茜

はじめに

本報告の内容…自己紹介及び博論の内容の紹介

具体的内容
①文化系専門学校の教育内容・キャリア形成
②高等教育政策における職業教育重点化構想の特質と課題～専門学校改革に着目して

１.問題関心の紹介および文化系専門学校の教育内容・キャリア形成の解明

＜元々の問題関心＞

・青年の労働と消費文化領域における成長の結合のあり方について
・非正規雇用の基幹化による不安定労働の常態化―それに対し青年がどのように臨んでいるのか。→その一つとして、文化的な活動を軸とした労働・生活のあり方
・文化的な活動を軸に、何らかの「やりがい」を持つ、自らの手で「もの」を生み出すなど、何らかの手ごたえを得ながら労働・生活を営んでいる実態がある。
・特に労働という側面に焦点化した際、そうした象徴としての「趣味を仕事にする」実態
→職業教育、青年期教育の視点から検討

＊詳細は補足資料①を参照。

＜研究テーマ＞

・「文化系」（＝ファッションデザイン、美容、デザイン、美術、音楽系の職業養成系）専門学校の教育内容・キャリア形成の実態と意義の解明

・現在は「進学」段階をめぐる検討を進めている
～「体験入学」「オープンキャンパス」への参加
～予備調査実施予定

２．高等教育政策における職業教育重点化構想の特質と課題～専門学校改革に着目して

・専門学校制度改革の動向

…一条校化運動の推進、「職業実践専門課程」の制度化
…関連して、高等教育政策としての「新たな高等教育機関」の創設をめぐる議論
～大学改革の一環として結論。しかし、議論の前半では専門学校改革が強く反映。
…「新たな高等教育機関」に専門学校が移行、「職業実践専門課程」が移行？

・問題の所在：
「新たな高等教育機関」の創設をめぐる議論における専門学校関係者アクターの動きは、いかなるものであったのか、アクターの特質はいかなるものであったのか

・「新たな高等教育機関」の創設をめぐる議論について
（補足資料②を参照）

・「新たな高等教育機関」の創設をめぐる議論の中心議題
①「新機関」の創設の賛否、②「新機関」の制度的位置づけ、③「新機関」の具体的制度設計

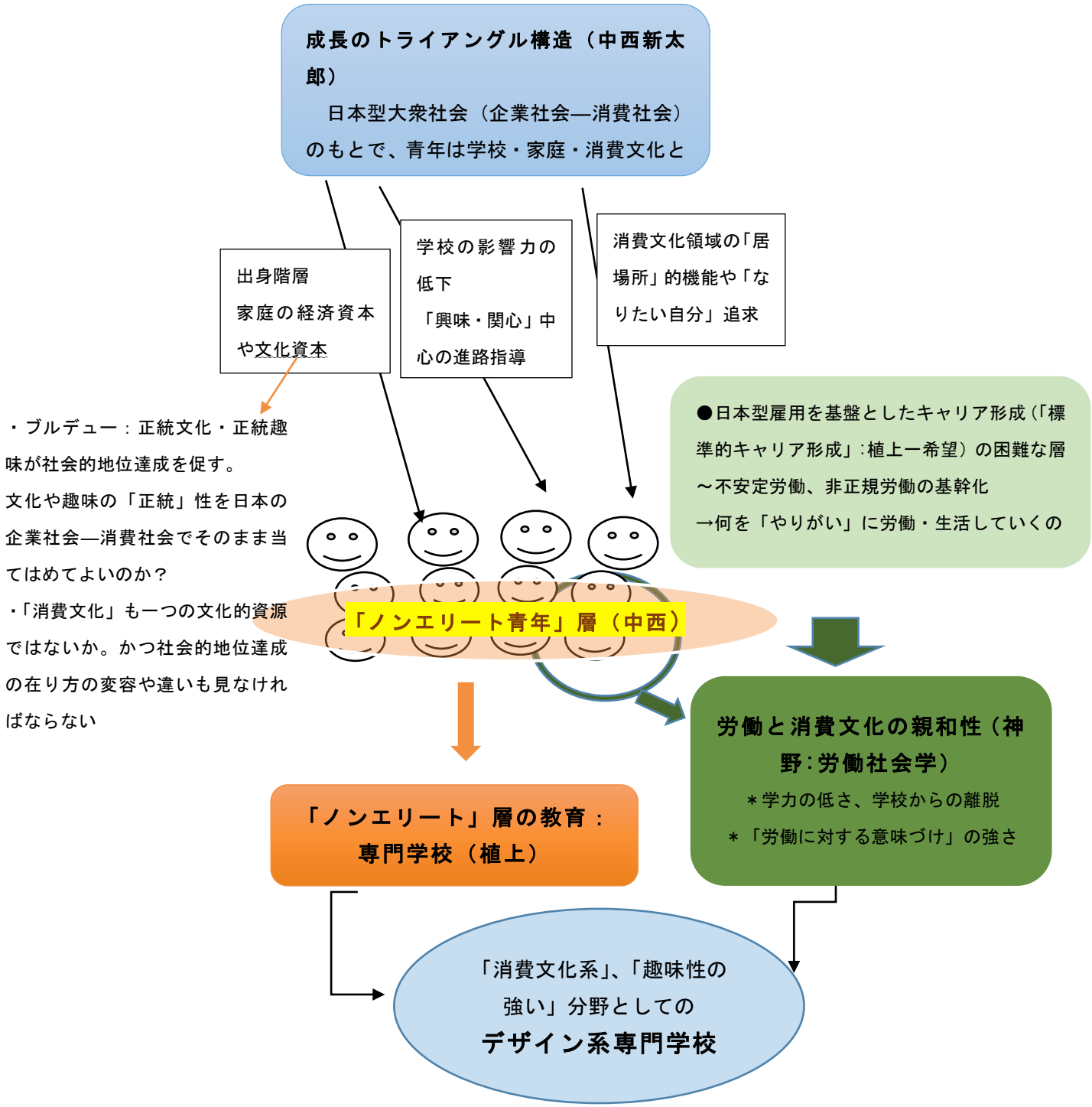
・「新たな高等教育機関」の創設をめぐる議論の各アクター
文部科学省、座長　／　職業教育研究者（専門学校、高等職業教育）　／社会学研究者（若者の移行問題）　／　専門学校関係者　／　高等教育関係者

・専門学校関係者のロジックの特質とその変化
～専門学校関係者の委員の発言に着目して
キャリア部会・・・川越委員、中込委員　専門学校の地位格上げ推進：吉本委員
「新たな学校種」に専門学校が移行することで、一条校になる。
高等教育段階の職業教育機関を確立する。大学の学位とは異なる職業学位の付与を希望
有識者会議・・・川越委員、岡本委員
＊大学体系への位置づけが優勢
・「新たな高等教育機関」は大学の学位であるべきか否か
・「職業実践専門課程」は「新たな高等教育機関の創設」、ひいては高等教育段階の職業教育を確立していくうえでの重要なステップである
特別部会・・・川越委員、岡本委員
・職業実践専門課程の教育内容やカリキュラムを、「新たな高等教育機関」のそれにも大きく反映

→議論の当初は、「新たな高等教育機関」に専門学校を移行することで専門学校の一条校化を実現するというロジック。大学の学位とは別の職業学位などの付与を希望。
→有識者会議以降は、「新たな高等教育機関」が大学体系に位置する方向性となったことで、移行は困難であると認識され、一条校化構想は実現困難に。
→最終的な結論としては、「職業実践専門課程」のカリキュラムが「新機関」の制度設計に多く反映された点に関しては、それが日本の職業教育体系の確立を推し進めたと認識しているのでは。

・今後の課題
・「職業実践専門課程」の詳細な検討
・今後の専門学校の制度的地位向上の運動の把握
・高等教育段階の職業教育改革全体像との関係を検討

補足資料①　文化系専門学校の教育内容・キャリア形成について



補足資料②　＜「新たな高等教育機関」の創設をめぐる議論の流れと審議内容・答申内容の概要＞

2008 年 12 月設置　キャリア教育・職業教育特別部会　（生涯学習局主管）
＝「キャリア部会」

・後期中等教育のキャリア教育・職業教育の充実方策や、
高等教育のキャリア教育・職業教育の充実方策など
…「職業実践的な教育に特化した枠組み」（「新たな枠組み」）の整備

2011 年 1 月中教審答申
今後のキャリア教育・職業教育の在り方について
＝「キャリア答申」

…「新たな学校種」の構想イメージの提示

2014 年　教育再生時以降会議
「今後の学制等の在り方について（第五次提言）」

…「質の高い実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化が求められる」と明記

2014 年 10 月設置
実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に関する有識者会議
（生涯学習局・高等教育主管）
＝「有識者会議」

…中心的議題：
「新機関」の基本的方向性、「新機関」を制度的にいかに位置づけるか

2015 年 3 月
「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関審議まとめ」

・高等教育の「多様化」「機能別分化・複線化」を図るために「新たな高等教育機関の創設」をする
・国際通用性等の理由からそれを大学体系に位置づけるという基本的方向性

2015 年 3 月　教育再生実行会議
「『学び続ける』社会、全員参加型社会、地方創生を実現する教育の在り方について（第六次提言）」

…「地域の産業、担い手を育てる大学等をつくる」必要性
…「第五次提言」でも述べた「新機関」の制度化の実現に向けた取り組みの推進

2015 年 4 月設置　実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に関する特別部会
（生涯学習局・高等教育主管）
＝「特別部会」

・中心的議題：
「新機関」における「質の高い職業人」の養成を可能にし、かつ国際的・国内的評価を獲得できるための具体的制度設計の在り方をどう考えるのか

2016 年 5 月中教審答申　「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について」
＝「新機関答申」

…大学体系への位置づけ
…「現場レベルの改革・革新を牽引できる人材」養成
…産業界・地域と連携および実務家教員の登用
…専門高校卒業生や社会人受け入れをスムーズに行うための教育課程の前期課程・後期課程の設置に関する基本的方向性

中国における中等職業教育のキャリア教育の改革と実態

―天津市の事例を焦点に―

朴　雪梅（NPO法人アシスト・キャリア　研究員）

目次

- １．はじめに
- ２．研究対象の選定理由
- ３．キャリア教育の政策動向
- ４．中等職業学校におけるキャリア教育のカリキュラム改革
- ５．天津市の事例－天津市A工業学校
- ６．おわりに

１．はじめに

- 現今、日本では、少子化や高齢化とともに、グローバル化の進展や情報技術革新（ICT化）等により、産業構造・就業構造、雇用環境は大きく変化し、フリーター志向やモラトリアム傾向の拡大、上級学校への無目的な進学、就職後の早期離職など、学ぶことや働くことへの意欲や態度の低下が指摘されている（2011（中央教育審議会）「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」）。

- こうした変化の激しい時代で成人の入り口にさしかかっている高校生の場合、どのような職業能力を身につけ、望ましい職業観･勤労観を形成し､明確なキャリアプランニングを描けているか否か、それぞれが直面する様々なことが重要な課題となっており、社会的･職業的自立に向け、基本的な知識･技能だけではなく、必要な能力や態度を育てるキャリア教育に対する期待が高まっている。

中国におけるキャリア教育の推進の背景

- 一つは、1980年初めから、中国では社会主義市場経済体制の改革によって、新規大学卒者・高卒者に対する厳しい競争状況に置かれている就職問題、及び国営企業のレイオフの再就職の問題を解決するために、求人者に対する職業訓練や能力が必要である。

- もう一つは、2000年代に入ってから、技術革新に基づく産業や労働市場が求める資質能力が不可欠となっている。こうした状況の中で、その技術革新を担い得る技能型人材へのニーズに応えるものとして、汎用的な知識・スキルの習得、キャリア教育・職業教育の推進が重視されるようになってきている。

キャリア教育の定義

- 中国では、キャリア教育は「職業生涯教育」と表記され、「目的や計画を持ち、組織的に個人の職業キャリアの意識と総合的な職業能力を高めることや、キャリアプランニングの進行や実行を主体とする総合的な教育活動」として認識されている。そのうち、後期中等職業教育におけるキャリア教育は、教科「キャリアプランニング」（原語：职业生涯规划）の中で主に行われている。

中国では後期職業教育におけるキャリア教育についてどのように改革され、そしてどのように実施されているのか。

２．研究対象の選定理由

- 第一、中等職業学校の在学者数、教員数
- 第二、募集生徒の家庭状況
- 第三、生徒自身状況

３．キャリア教育の政策動向

- 1985年「中共中央の教育体制改革に関する決定」：キャリア教育が重視されるようになった。
- 1996年「職業教育法」第4章：「職業教育を受ける者に思想政治教育と職業道徳教育を行い、職業に関する知識、技能を身につけさせ、職業指導によって教育を受ける者の資質を全面的に高めることや職業上のキャリアを指導する」という重要性が示された。
- 2004年「中共中央国務院における未成年の思想道徳教育の改善に関する若干意見」：「中等職業学校では生徒の思想道徳教育を高めるために、より一層のキャリアプランニングと職業指導を行い、生徒に正しい職業観と職業思想を打ち立て、総合的な職業資質と能力を向上させる」と述べた。
- 2006年国家教育部のキャリア教育プロジェクトチームが研究会を開き、現状と各地の実践に関して情報交換するなど、キャリア教育の推進に関心が集まっていた。
- 2013年3月に中国青少年研究センターは日本、韓国、アメリカの機関とともに『中国・アメリカ・日本・韓国の後期中等教育卒業生の進路とキャリア教育報告』を発表した。

４．中等職業学校におけるキャリア教育のカリキュラム改革

表１「改革開放」初期～1993年まで「徳育」科目

年　間	高校1回生	高校2回生	高校3回生
1977－1979年	政治経済学常識	弁証法的唯物論常識	
1980－1985年	政治経済常識	弁証法的唯物論常識	
1986－1992年	科学人生観	経済常識	政治常識

出典：馬小宝・張偉主編『中等職業学校における徳育科目の解釈と実施』（高等教育出版社、2012年）p.14を筆者が一部抜粋、訳出して作成。

表2　中等職業学校における「徳育」科目の三期の課程改革

改革の年間	政策主体・文書名	カリキュラム改革の内容
1993年	国家教育委員会（現：国家教育部）『中等職業技術学校における政治科目のカリキュラムの設置の意見』（［1993］17号）	学制、生徒募集対象、専門コースによって「経済政治」、「世界観人生観」、「法律」、「国情」、「職業道徳」、「社会主義市場経済」、「政治常識」、「哲学基礎」、「中国の特色の社会主義理論の構築」という合計９つの科目が設置された。
2001年	国家教育部「中等職業学校における徳育科目のカリキュラムの設置と教授配布に関する意見」（［2001］2号）、「中等職業学校における徳育科目の課程教育指導要綱」（［2001］3号）	「政治」科目から「徳育」科目に改称され、「職業指導」必修内容として入れた。また、初めて指導要綱が配布され、9つの科目が「職業道徳と職業指導」、「法律基礎知識」、「哲学基礎知識」、「経済と政治基礎知識」の4つの科目に減少された。
2008年	国家教育部「中等職業学校における徳育科目課程改革と教授配布に関する意見」、「中等職業学校における徳育科目の課程教育指導要綱」（改訂）	「徳育」科目は必修科目と選択科目という2つに分けられ、必修科目は「キャリアプランニング」、「職業道徳と法律」、「経済政治と社会」、「哲学と人生」の４つとする。選択科目は、「心理健康教育」である。

表3　（2001）「徳育」科目のカリキュラムの設置

学　年	学期	科　　目	授業時間
第一学年	前期	職業道徳と職業指導	32～36
	後期	法律基礎知識	32～36
第二学年	前期	経済と政治基礎知識	32～36
	後期	経済と政治基礎知識	32～36
第三学年	前期	哲学基礎知識	48～54
	後期	哲学基礎知識	

備考：選択科目の時間数は30である。
出典：教育部編『中等職業学校における徳育科目の課程教育指導要綱』（高等教育出版社、2001年）
王継平「中等職業学校における徳育科目の設置の制定と実施」（2001年第6期　pp.6-10）p.9参照

表4　（2008）「徳育」科目のカリキュラムの設置

学　年	学期	科　目	授業時間
第一学年	前期	キャリアプランニング	32～36
	後期	職業道徳と法律	32～36
第二学年	前期	経済政治と社会	32～36
	後期	哲学と人生	32～36

備考：選択科目の時間数は64であり、「心理健康教育」のみならず、時事政策教育、環境教育、安全教育等を行う。
出典：教育部編『中等職業学校における徳育科目の課程教育指導要綱』（改訂）（高等教育出版社、2009年）p.2

「キャリアプランニング」の教育指導要綱

- 中等職業学校でキャリア教育を推進するために、2004年に教育部は「中等職業学校における徳育科目の教育要綱」を配布した。同要綱は「徳育」の目標、内容、管理など様々な要求が提出された。
- 2008年改訂の教育指導要綱（2009年実施）の中で、初めて「キャリアプランニング」カリキュラムへの設置を取り入れる。「キャリアプランニングの基礎知識や方法を身につけること」、「正しい職業理想を打ち立て、職業観や職業選択観等の育成」、また「職業資質、職業能力の向上」という全体的な教育目標を提示された。

５．天津市の事例－天津市A工業学校

１）学校の概要

- 本校は1958年に設立され、国家最初モデル学校であり、国家重点中等職業学校である。在校生総数、約5000名、専任教員総数149名、そのうち、「双師型教員」の割合は90%以上である。専門分野は7コースがあり、15小コースがある。具体的に以下のとおりである。
- 専門分野：加工製造類（CNC、メカトロニクス、機械、電気工程、器具や測定器）
  交通運送類（自動車利用と保守）
  食品類（食品営業と検査）
  石油化学工業類（工業分析と点検、精密化学工業）
  情報技術類（コンピュータ・ネット技術、物事のインターネット）
  ファイナンス・ビジネス類（電子ビジネス、物流サービスと管理）
  文化芸術類（工芸美術、アニメ・ゲーム）

表5．生徒募集のチラシの一部

生徒募集対象	学　　制	専門コース	連携学校
中学校の卒業生	「中高職業教育5年間一貫制」	食品栄養と検査	現代職業技術学院
		メカトロニクス	
		モノのインターネット(IoT)	
	「3＋2」（3年制中等職業学校＋2年制の高等職業学院）	CNC技術応用	天津職業大学
		工業分析と点検	
		電気工程自動制御	中德職業技術学院
		自動車点検と保守	
		コンピュータ・ネット技術	電子情報職業技術学院
		メカトロニクス	天津軽工職業技術学院

出典：調査当日の配布資料により、筆者が一部抜粋して翻訳した。

表6.「コンピュータ・ネット技術」のカリキュラム表の一部（就職向き）

科目分類			科目名称		総学時	総単位数	時間配分 一年前期	一年後期	二年前期	二年後期	三年前期	三年後期
共通基礎科目	共通基礎項目	必修科目	徳育	キャリアプランニング	36	2	2					
				職業道徳と法律	36	2		2				
				経済政治と社会	36	2			2			
				哲学と人生	36	2				2		
			語文		144	9	2	2	2	2		
			数学		144	9	2	2	2	2		
			英語		144	9	2	2	2	2		
			コンピュータ応用基礎		144	9	4	4				
			体育と健康		108	6	2	2	1	1		
		選択科目										
				小計	828							

出典：調査当日の配布資料により、筆者が一部抜粋して翻訳した。

聞き取り調査

（１）　フィールドワークについて、天津市A工業学校(重点校)では「職業生涯教育」はどのように展開されているのか？（カリキュラムの改革、実施内容、教員の進路指導）

- ①上記の表6のように、「キャリアプランニング」は共通基礎科目の一部であり、32学時～36学時（週2学時、1コマ45分）、2単位として1年次の前期に履修させること
- ②就業体験（インターンシップ）について、当校は2年次の後期に就業体験等の事前指導・事後指導を行う。
- ③2年次末に「オリエンテーションクラス」が設立される。
- ④生徒の進路指導（進学・就職の割合）について

本校では進学向きと就職向きに分けられ、各専門コースが設置されている。新入生に対する入学　　教育を行うと同時に、専門コースの選択について、生徒本人が最終的に決断するとのことではあったが、そこに至るには70%以上保護者の働きかけがあることは明らかである。

2014年より「食品栄養と検査」、「メカトロニクス」、「物事のインターネット」という3つの「中高職業教育5年間一貫制」コースが設立され、高級職業資格証・高等学位を取得できる。

また、3年次から進学希望者によって、「進学クラス」が設立された。5年間の進学率は65%であり、就職率は年々減少している。

（２）　キャリア教育と職業教育の関係について

- 「キャリアプランニング」の授業を通じて、40%～50%仕事・職業に対する態度・認識（原語：认识工作与职业）を形成し、そのうち、エリート生を選んで､半年に海外留学に行かせ、よりよい技師、高級技師を育成させる。
- 生徒は「半工半読」（パートタイムで仕事と学習の交互に行う）を行っている。特に、「自動車点検・保守」コースの生徒は1年次の後期から月の3、4日に企業実習を受けるように「デュアルシステム」という教育を行う。また、「電気工程自動化」コースの生徒は教員と同行し、昼間に企業への実習に行って、夕方に学校に戻って自習をする
- 進路選択（原語：生涯选择）と職業の関係（大手企業、中小企業など）

「メカトロニクス」、「CNC」、「電気工程自動化」、「自動車点検・保守」コースの卒業生はそれぞれの専門分野に適応する大手企業への就職率が85%以上である。

６．おわりに

- 中等職業教育は重要な部分であり、「高い素質がある労働者、技能型人材」という育成目標を踏まえて新たな要求が求められている。すなわち、よりよい国民資質の向上を切に願っている。このような需要に応じて、中国における後期中等職業教育のスタートを切ってから、校外実習までの時期を「徳育」教育を実行した。
- この時期は、特に1年次の前期より教科「キャリアプランニング」を中心としてキャリア教育を行い、生徒は将来にどの仕事をするにしても必要になる「基礎知識や方法」、「職業理想や職業素養」、「職業観や職業選択観の育成」等を身につけることが大切であろう。
- 中等職業教育は、技能実践能力を重視するだけではなく、職業資質や職業素養等を育成するための教育目標を、3期の連続したカリキュラム改革を通して達成しようとした。加えて、国家が定められた教育指導要綱を基づき、生徒の職業資質、職業能力の向上がますます重要となってきたといえる。

【引用文献】

- 寺田盛紀編著（2004）『キャリア形成就職メカニズムの国際比較-日独米中の学校から職業への移行過程-』晃洋書房
- 文部科学省（2014）『諸外国の教育動向（2013年版）』明石書店
- 中華人民共和国教育部編（2009）『中等职业学校德育课课程教学大纲汇编』高等教育出版社
- 蒋乃平主編（2013）『职业生涯规划(修訂版)』高等教育出版社
- 馬小宝・張偉主編（教育部・財政部組編）（2012）『中等职业学校德育新课程解读与实施』高等教育出版社

「職業指導」教育実践報告

瀧本知加（東海大学）

⑴はじめに

本稿は、2016 年度東海大学農学部・基盤工学部における「職業指導」（4 単位）の実践記録である。
履修者は農学部 22 名、基盤工学部４名で、週２回開講したものである。授業形態は講義を基本とした。

⑵授業概要（シラバスより）

【授業テーマ】
職業と教育の関係について学び、考える。

【授業要旨】
本講義は、高等学校「農業・工業」免許取得の必修科目である。
私たちの社会は、様々な職業に就く人々によって支えられ豊かなものとなっている。それにもかかわらず、ほとんどの人たちは職業についてほとんど知らないまま大学まで進学してきたのではなかろうか。その背景には、学校で行われている職業指導が、偏差値に偏った進学指導や、生徒の個性をふまえない就職斡旋に変質していることが大きく影響している。近年では、労働市場が不安定化する中で、特に若年者の雇用の不安定さが問題となっている。このような状況において、求められる職業指導は、労働市場や職業生活のリアリティをふまえ、職業の意義や価値を適切に捉え、生徒の個性や能力を伸ばすための明確な道筋を示すものでなければならない。
本講義においては、職業やそれをとりまく社会の現状を知ることから始め、受講者自身の職業観・勤労観を捉え直すことから始めたい。その上で、職業に関する原理的な諸問題について取り上げ、職業の意義や価値について学び、具体的な職業教育の諸側面について検討する。
これらを通して、高等学校において職業教育を担うための能力の醸成を目指す。

【参照図書】
斉藤武雄、田中喜美、依田有弘、佐々木英一、『ノンキャリア教育としての職業指導』学分社、2009。
本田由紀『教育の職業的意義ー若者、学校、社会をつなぐー』ちくま新書、2009。
乾彰夫『高卒５年 どう生き、これからどう生きるのか: 若者たちが今〈大人になる〉とは』大月書店、2013。
竹内義彰『職業指導論』法律文化社、1973。
米田博他『職業指導』評論社、1976。

⑶授業内容

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価、予定等々。
2	職業とは何か？① ～職業と人間・社会・教育～	「なんのために職業につくのですか？」 →職業の２つの側面「労働の分担」「自己実現」
3	グループワーク 「なくなる職業について考えてみよう」	なくなる職業＋出現する職業について話し合い、ランキングする。
4	職業とは何か？①～職業と人間・社会・教育～	人間がやらないといけない仕事とは何か？ →人間と仕事との関係を問い直す
5	職業とは何か？②～職業をどのようにとらえるか？～	「みなさんのつきたい（つく）職業は天職ですか？」→職業観について
6	職業とは何か？③～現代の職業の特徴と職業観～	マスターピースの話→現代の職業の特徴
7	ワーク「職業の３要素から職業を捉える」	「個性の発揮」「社会的役割の遂行」「経済的自立」の３要素のバランス
8	グループディスカッション「電通過労死」	問題点、改善点
9	日本型雇用と日本人の働き方	過労死問題からみる働き方の問題→日本型雇用（メンバーシップ型雇用）と職務主義（ジョブ型雇用）
10	日本型雇用と現在の職業	職務によらない雇用の特徴

11	グループディスカッション「日本型雇用」	日本型雇用の長所と短所について
12	戦後日本社会の職業と生活	失業の少ないシステムから、流動的な労働市場への変化。
13	VTR「ミドルエイジクライシス」	日本型雇用がもたらした問題（新卒採用）について、ロストジェネレーション問題
14	意見交換「これまでの授業の印象に残っていること」	前半の授業で印象に残っていることを一人ずつ発表してもらう。
15	ディベート準備	「好きなことを仕事にすべきだ」について８グループに分かれてディベート。
16	ディイベート準備	資料等を持ち寄り、話し合いを行う。
17	ディベート①「好きなことを仕事にすべきである」	
18	ディベート②「好きなことを仕事にすべきである」	
19	ディベートまとめ＋VTR「つきつけられたゲンジツ」	ディベートの振り返り。 リストラと再就職について VTR を見る。
20	流動化する雇用と労働	職業の社会的側面と個人的側面のアンバランスさの問題→ディーセントワーク、ワークライフバランス、
21	職業指導とキャリア教育	職業指導を「学校から社会への以降を支援すること」と定義し直す必要性。キャリア教育の問題点。
22	めざすべき職業指導とは？	職業指導の歴史的展開と今日的課題（ノンエリート教育としての職業指導）
23	「青年労働者へのインタビュー」からを読む	林先生のインタビューを読んで感想をまとめる。
24	調査研究準備	個人調査かグループ調査を選択し作業する。
25	調査研究準備	冬休み中に調査を行う。→地元の同級生や親族等
26	調査研究準備	
27	研究発表準備	調査の結果をまとめて、パワーポイントで発表資料を作る。
28	研究発表準備	
29	研究発表	
30	研究発表	

⑷授業計画・実施にあたって留意した点

受講生は、４年生（8 セメスタ）であり、ほとんどの者が就職活動を終え、就く仕事を具体的にイメージできる状態であるが、他方で、実際に働いているわけではないため、職業に関する経験はアルバイト等に限られている。農業とういう分野の特性上、大企業に入っていく者は少なく、自営や NPO など、多様な働き方を選択している者もいる。また、教職志望者は４～５名（臨時採用待ち）であるが、志望の意志は強く、現実的な指導の能力に繋がるための職業理解の基礎を築く必要があると考えた。他方、2016 年４月の震災により阿蘇の学生村の生活が一変したことを踏まえ、調査研究の取り組み方を選択できるようにした。

⑸授業の流れ

第２回～第７回
目的：職業について、具体的なことよりも、原理的な部分をしっかり理解してもらいたい。自分の就く職業を念頭におきながら、興味をもって聞ける&理解できるように工夫する。
進め方：「職業とは何か？」をテーマに、レジュメを中心に講義を行った。

（第２回）
講義の初めに、「みなさんは何のために職業につくのですか？」という質問をし、全員に回答してもらう。→板書
→「お金のため」「私生活を充実させるため」「好きなことをするため」「よりよい生活をするため」という回答があるが、「社会のため」といった回答は少ない。
→そこから、「労働の分担としての職業」を切り口として、職業の成り立ちについて説明していく。
キーワード
「自給自足」（だれにも頼らず生活する状態）
「単純な分担」（性別や年齢による労働分担）
「世襲」（世襲のメリット・デメリット）
「能力開発と選抜」（学校システムの整備）

（第３回）
前回の講義の振り返り（「労働の分担としての職業」について確認）を行なったうえで、分担するのが人間だけじゃなくなってきた（OA 化、IT 化、ME 化）ことと、さらにそれが進むこと（AI の出現）について説明する。
→グループに分かれて、「今後 20 年でなくなる仕事」と「出現する仕事」のランキングを作る。

→なくなる仕事についてはイメージできるが、出現する仕事についてはあまり出てこなかった。
→ただし、農業にも関係するような、面白い回答があった。
（例：過去体験業、大気汚染清掃業、宇宙旅行会社、養食虫農家、自然災害予防、専門学校教員）

（第４回）
前回の続き（「職業とは何か？」）
なくなる仕事について質問→「なくならない仕事」はどんな仕事だろう？（どういう仕事を機械化させたくない？）
→人間しかできない仕事、人間にやってほしい仕事がある？→でも人間が要らなくなる状況は確実に広がるというところから、人間から仕事がなくなったらどうする？
→「欲求充足の媒体としての職業」について（マズローの欲求の段階説の解説）
→自己実現のための職業について解説
なんのために職業につくのか？には２つの側面がある❶社会のため、❷自分のため

（第５回）
授業の初め、「みなさんのなりたい（なる）職業は天職ですか？」と質問する
→「？？？」「向いていると思うけど、やってみないとわからない」「天職です！」など
→そもそも「天職ってなんだろう？」という話
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
《なめとこ山の熊の話》

「なめとこ山の熊」宮沢賢治
なめとこ山に、小十郎という名の猟師がいた。小十郎は、熊撃ちの名人であったが、山は国に買われ、町では職にありつけず、熊を撃ち（殺し）その皮と胆を売ることで家族を養っていた。熊の皮と胆は荒物屋に不当に安く買い叩かれたが、それでも小十郎は仕方なく猟をするしかなかった。
ある日、小十郎が殺そうと思った熊が、木から降りてきて、「なんのために俺を殺すのか？」と聞いた。小十郎は、皮と胆を売るためだが、それはほんのちっぽけなお金にしかならないこと、そんなために熊を殺すなら栗や木の実だけで飢えて死んでもいいかもしれないと思っていると告げた。その熊は、「いろいろやり残したことがあるから、２年待ってくれ、そうすれば、お前の家の前で死んでいてやる」といい、去っていった。２年後、小十郎の家の前には約束通り、熊が血を吐いて倒れていた。小十郎は、思わず熊を拝んでいた。
その後、小十郎は初めて猟に出るのが嫌になったと母に漏らし、猟に出たが、大きな熊に不意打ちをされ、襲わ

れてしまう。小十郎は、青火（死ぬ前に見る火）を見て、もう死ぬのだな、と漏らした。その三日後、座るような格好に置かれた小十郎の死骸の周りを熊たちが伏して取りかこみ、弔いが行なわれた。

【小十郎が自分の職業について語った言葉】
「熊。おれはてまえを憎くて殺したのでねえんだぞ。おれも商売ならてめえも射たなけぁならねえ。ほかの罪のねえ仕事していんだが畑はなし木はお上のものにきまったし里へ出ても誰も相手にしねえ。仕方なしに猟師なんぞしとるんだ。てめえも熊に生れたが因果ならおれもこんな商売が因果だ。やい。この次には熊なんぞに生れなよ」

因果：ここでは宿命（自分ではどうすることもできない）という意味
➡□自分ではどうすることもできない＝やりたい仕事ではない
でも、小十郎は「熊撃ちの名人」
でも、小十郎は熊に慕われて死んでいった

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ここから、禁欲的労働と天職の概念
「Beruf」「Calling」を紹介
→日本の勤労観と比較してみる。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
なめとこ山の熊の小十郎の職業観

仕方なくついた仕事でも「熊撃ちの名人」になるほど極めていた＝禁欲的労働
その小十郎の姿勢は、享楽的な人間には通じないが熊には通じていたのではないか
＝神聖さを帯びた仕事

小十郎のように仕事を因果としてとらえ、それに捉え打ち込むことで、たとえ、命を奪うこととなっても
熊への敬意を持ち、仕事を極めた人も居る。

➡□しかし、その成果を買い叩く荒物屋のように、
現代の資本主義社会はそのような仕事の価値を必ず認めるわけではない

近代民主主義社会の原則
自由・平等・基本的人権の尊重
個人のための職業「自己実現のための職業」という職業観が主流

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

→自分に適合した仕事、という「天職」の捉え直し

（第６回）
天職の話の復習
→自己実現の手段としての職業について考える

・刀の銘、ブランドのロゴ（名前）について紹介。→これなにが書いてあるの？（作った人の名前）

「マスターピース」…会社に雇われるのではなく、自律的に仕事を行なっていたため、自らの製品が自己の表現であり、自己実現でもあったといわれる。
→そこから、現代の職業の特徴について解説（高度に組織化された産業社会における職業）
「他律的」「断片的」「無意味」
→職業の変化によって、職業観の持ち方も難しくなっている（望ましい職業観の成立の難しさ）
→尾高邦雄の整理にしたがって、「個性の発揮」「社会的役割の遂行「経済的自立」」の３側面から職業をとらえてみよう。

（第７回）☆ワークシート
ワークシートに取り組み、発表する。
→３つの要素のバランスに注目する必要性について気づく。

第８回～第 13 回
目的：就活を終えて、日本型雇用に入っていく学生に対して、日本型雇用の問題点について理解してもらうのは難しいが、今後確実に変化していく（流動化していく）であろう労働市場について、悲観的にならずに理解できるように工夫する。
進め方：日本型雇用について、ディスカッションを挟みながら、詳しく解説する。

（第８回）
グループディスカッション
電通過労死問題について話し合う
資料「過酷電通に奪われた命、女性新入社員が過労自殺するまで」（.dot 朝日新聞系メディア 2016.10.18）
→意見交流
「なぜ止められなかったのか」（SNS の発信があったのに）「会社の運営がおかしいのではないか」「できない仕事を断れなかったのか」など、、、
→あまり意見に広がりがない（漠然とディスカッションさせてしまった）

（第９回）
前回のディスカッションの振り返り
→過労死事件の背景として日本的な働き方＋勤労観が影響していることについて解説。
❶終身雇用
❷年功序列
❸企業内労働組合
それぞれのメリット・デメリットについて話し合いをし、発表してもらう。
→メリットもあるがデメリットもある、メリットを重視してやってきたけれども、今後はどうなっていくか予想してみる。（解説の中で、「メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用について解説」）
→日本独特の職能主義について解説

（第 10 回）
前回の授業の振り返り→メンバーシップ雇用を支える、職能主義について再確認→職務主義の不在について詳しく解説する。
→メンバーシップ雇用を支える新規学卒採用と定年制について「会社による一括採用」の問題点について考える。
「人事部による一括採用の問題は」「職務ローテーション」「OJT」
→講義の際、長所・短所を考えてもらうように注意

（第 11 回）
グループディスカッション「日本型雇用のメリット・デメリット」について考える。
→付箋を使って、メリットデメリットについて張り出してもらう。
ある程度、客観的に日本型雇用について捉えられることを目指す

（第 12 回）
前回の授業の振り返り→職務主義の不在と職能主義の矛盾について確認。
日本型雇用の変化について解説
「グローバル化」「低成長」「新時代の日本的経営」「労働者派遣法」
これらの変化が職業だけでなく、生活の変化へとつながっている点について解説→戦後日本の「標準的生活」

（第 13 回）
VTR「ミドルエイジクライシス」
戦後日本の標準的生活にとってもっとも重要なこと「新規学卒雇用されること」→しかし、新規学卒雇用されなかったらどうなるか？に関して VTR を通して考える。
→資格を取得しても就職できない、就職できていても、派遣社員などはすぐに失業する、失業すれば再就職は難しい。「標準的生活」から溢れてしまえばリスクが非常に高い。
→VTR の最後に子育て中の女性が「頑張って勉強すればなんとかなるとは思えない。子どもになんといって育てれば良いかわからない」と語る。
→VTR を通して日本型雇用を通した「標準的生活」を送れる人が少なくなっていることについて確認。

（第 14 回）
これまでの授業で印象に残っていることについて、ひとりずつ発表してもらう→板書

（第 15 回～18 回）
ディベート
テーマ「好きなことを仕事にすべきである」
4 グループに分かれて、準備（2 コマ）ディベート（2 コマ）行い、自分のグループ以外の時には、一人ずつ評価コメントをする。
→「好きなことを仕事にすべき」という意見は当初少数だったが、仕事を続けていくにあたって、またよりよい仕事をするにあたっては「好き」という要素が重要ではないか？「好き」と「できる（得意）」とはちがうんじゃないか？など、様々な意見がでた。

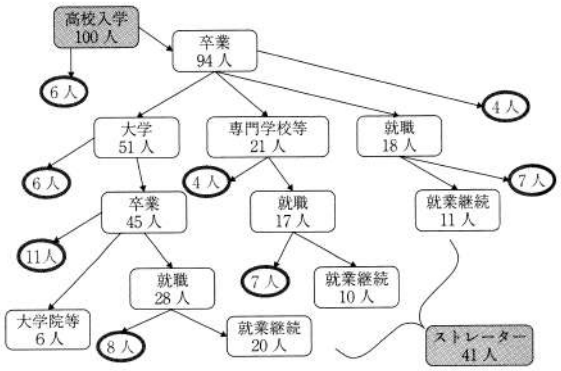
（第 19 回）
ディベートの振り返りを行い、その上で、VTR「つきつけられたゲンジツ～希望退職者 711 人の労働異動～」を見る。
→希望退職者５人を追ったドキュメンタリー
→介護職に就く人、非正規の公務に就く人、トラックの運転免許を取り新しい仕事にチャレンジする人、独立して飲食店を開く人、シーツクリーニングの仕事に就く人、それぞれの職業観が語られる。
→「好きじゃないことでも働いていないとおかしくなる。」「車が好きだったからそっちの仕事にチャレンジした」「安定した仕事につきたい」「介護しかない」など、様々な言葉を通して働くことについて語られる。
→やっぱり好きなことって大切じゃないの？という話をする。

（第 20 回）
流動化する雇用と労働について、職業を社会的側面と個人的側面から捉え直し、個人からみた職業の概念の観点が薄れていることと、雇用・労働を取り巻く問題を関連づけて解説。

→生徒の発達や成長を考え、職業選択を促す職業指導は、「個人からみた職業の重視」の観点をもつべきことを解説。

（第 21 回）
青年の進路の実態をつかみ、キャリア教育出現の背景に

図１　高校入学者を 100 人とすると…（推計）



（文部科学省「学校基本調査」〈2012年〉、厚生労働省「新規学校卒業者の就職離職状況調査」〈2012年〉をもとに著者が作成）

ついて理解する。
児美川 孝一郎『キャリア教育のウソ』（2013）より

→ストレーターの減少と求められる進路指導の変化について考える。
→雇用柔軟グループの出現により、どのような業務にでも対応できるような抽象的な力が求められうようになったことを確認したうえで、キャリア教育の問題点を「心理主義的傾向」「範囲と対象の無限定性」「具体的な職業教育の否定」の３つにまとめて説明。

（第 22 回）
これからの職業指導について、ノンエリート教育としての職業指導のあり方について考える。
→既存のキャリアモデルの古さについて検討（男性中心、正規雇用中心）。job hopping（職業探索期の出現など）
→乾（2013）の追跡調査について紹介。
→職業教育のない状態での社会への参入のリスクについて、具体的な職業教育を通して「職業観」「勤労観」を醸成することの重要性について。
→エリートの自立とは異なる、堅実で身近にあるよりよい自立の形について説明。（湯浅誠の「溜め」の概念などの紹介）

（第 23 回）
調査研究の実施（～第 30 回）
これまでの講義で学んできたことをもとに、学校教育のどういった点がその後の職業・進路にとって重要であるか、調べてくる。
①グループを作って量的調査
②個人で質的（インタビュー）調査

表序-1　移行の三側面（離家・学校から仕事へ・家族形成）に基づくケース整理

		高校	学歴	経歴タイプ	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	現職	就職・雇用形態	離家／結婚
手塚豊	男	B	高卒	標準	正社員：印刷所 同居					印刷工員	正規	同居（転職による離家＝寮住まいの可能性）
小谷恭介	男	B	高卒	標準	正社員：配送	失業	正社員：板金工場 同居		離家・同棟	板金工員	正規	離家・同棟
内田玲奈	女	B	高卒	標準	正社員：惣菜屋 同居			中間的離家		食品販売	正規	中間的離家（実家近くにアパート）
相良健	男	B	高卒	標準	正社員	正社員：配管工 同居・プチ同棟（中間的離家）		結婚・同居　離家		配管工	正規	離家・結婚
下川彩乃	女	B	高卒	危機	派社員 同居					メッキ工員	派遣	同居
浜野美帆	女	B	高卒	危機	正社員 同居					チャット・オペレーター	派遣	同居
西澤菜穂子	女	B	高卒	危機	正社員 同居					チャット・オペレーター	派遣	同居
注山真紀	女	B	高卒	危機	同居			一時的離家	死別・離家	飲食（複数）	アルバイト	離家・一人暮らし
竹内奈央	女	B	高卒	危機	同居			離家・一人暮らし	同棟	食品工員・キャバクラ	アルバイト	離家・同棟
黒川武志	男	A	高卒	選択	正社員：事の建設・長楽・経営 同居				離家・同棟	刺繍経営・HP 作成	経営・アルバイト	離家・同棟
岸田さやか	女	B	高卒	主婦	同居・プチ同棟（中間的離家）			主婦 離家・結婚		（主婦）		離家・結婚
堀実香	女	A	高卒	主婦	主婦 結婚（出産）			主婦／パート 離家		飲食	パート	離家・結婚
吉川綾	女	B	専門中退	危機	専門 同居					飲食・事務	アルバイト	同居
小林俊介	男	B	専門卒	標準	専門：自動車整備		正社員：事務会社 同居		家族形成・結婚・同居	自動車整備店長	正規	同居・結婚
人見加奈	女	A	専門卒	標準	専門：看護 同居			正社員：看護師		看護師	正規	同居
加藤久美子	女	A	専門卒	標準	専門：看護 進学・離家				正社員：看護師 就職・同居	看護師	正規	一人暮らし→同居
坂本和孝	男	A	専門卒	標準	専門：福祉・長崎 同居			離家・勤務先の宿舎住まい		福祉施設指導員	契約	離家・勤務先の宿舎
木戸貴司	男	A	専門卒	危機	浪人 同居	専門：情報処理			正社員：失業	プログラマー	正規	同居
岡本祥子	女	A	専門卒	選択	専門：アルバイト 同居					俳優・コンビニ・商品説明員	アルバイト・派遣	同居
丸山真	男	B	短大卒	危機	浪人：運転 同居				正社員	商品管理	正規	同居
若林理恵	女	B	短大卒	危機	専門：文学 同居		祖母の介護による中間的離	家？	離家準備	飲食（複数）	アルバイト	一人暮らし準備中
神崎晶子	女	A	短大卒	主婦	浪人：長期：留学：留学生アルバイト・アルバイト 同居			主婦 離家・結婚		（主婦）		離家・結婚
川本裕	男	B	大卒	標準	専門：社会福祉 同居				正社員：社会福祉士 就職・離家	福祉施設指導員	正規	離家・一人暮らし
山口里沙	女	A	大卒	標準	専門：保育 同居				正社員：スポーツジム	ジム・インストラクター	正規	同居
原島智史	男	A	大卒	標準	四大：工学部 同居				正社員：電気工事技術者	電気工事技師	正規	同居
窪田千秋	女	A	大卒	標準	四大：生物工学部 同居					専門学校教育補助員	契約	同居
君島朋子	女	A	大卒	標準	四大：文学：語学留学生活動家		四大卒業		離家・同棟　離家・一人暮らし	添乗員	契約	離家・一人暮らし
桑田泰宏	男	A	大卒	在学	四大：中国語：アルバイト・交換留学・アルバイト 同居				語学学校留学	語学学校	（大学院進学希望）	離家・留学中
下田洋平	男	A	大卒	在学	浪人：予備・アルバイト 同居			離家：交換留学　同居	離家：私費留学	大学通信・アルバイト	アルバイト	同居
金山克也	男	A	大卒	在学	浪人	四大：[illegible]・アルバイト 同居				大学	（専門学校入学予定）	同居
川辺聡子	女	A	大卒	在学	四大：[illegible] 同居				四大大学院	大学院理系	TA（授業補助）	同居

「特別活動論」教育実践報告

瀧本知加（東海大学）

⑴はじめに

本校は、2016 年度東海大学農学部・基盤工学部における「特別活動」（2 単位）の実践記録である。
履修者は農学部 34 名、基盤工学部 6 名、である。

⑵授業概要（シラバスより）

【授業テーマ】
特別活動の基礎理論と計画・実践

【授業要旨】
特別活動は教科教育と並び学校教育にとって重要な教育実践である。生徒は学校で多くの時間を過ごすが、教科教育の時間よりも特別活動の時間に楽しみを見出す生徒が多く、特別活動は生徒の学校生活に大きく関わるものである。
特別活動は集団活動を通して、生徒の自主性・主体性を育てることを目的としているが、特に中等教育段階においては、社会に参画していくための市民性の育成が大きな課題となっている。
本授業では、はじめに特別活動に関する基本的事項について概説し、特別活動の意義について考える。次に、「集団活動」「主体性の形成」「市民性の育成」について重点を置いて解説を行い、特別活動に課された現代的課題について検討を深める。
これらの作業を通して、特別活動の目標・目的について主体的に考え、基礎的理論と方法を用いて特別活動を計画・実践する指導能力の基礎を育成することを目指す。

【参考図書】
山口満他『特別活動と人間形成』学文社、2012
麻生誠他『教科外指導の課題ー子どもの豊かな自己実現をめざしてー』学分社、1998
折出健二『相互自立の生活指導学』勁草書房、1993

⑶授業内容

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価、予定等々＋特別活動とは何か？
2	集団とコミュニケーション	集合と集団の違い、成員間の関係性について
3	集団づくり・学級づくり	集団としての学級と学級づくり
4	集団づくり・学級づくり②	集団づくりの課題について
5	集団づくりと教師の指導	集団づくりに影響を及ぼす教師の指導について
6	学級びらき「校則について」グループワーク	高校の校則について検討する・グループワーク
7	ロールプレイ	学級びらきのロールプレイ
8	ロールプレイ	〃
9	ケースワーク	ケースに取り組む
10	ケースワーク・グループワーク	グループでの話し合い＋発表資料の作成
11	ケースワーク・グループワーク発表	発表
12	特別活動における取り組みの質について	とある保護者のつぶやき
13	体験的学びと生徒の主体性	美しいもののワーク
14	青年期の課題と特別活動のねらい	

15	まとめとレポート作成	

⑷授業計画・実施にあたって留意した点

受講生は、３年生（6 セメスタ）と２年生（2 名）のため、ほぼ３年生となっている。農学部は 34 名と１つのクラスくらいの人数であるため、クラスのように捉え、コミュニケーションを流動化させ、ロールプレイングを行ったり、相互に評価しあったりできるような雰囲気を作り出すよう工夫した。農学部の学生は、すでに経験的学びや集団での作業（実習）を通した豊かな経験を持っている。それらの意味と価値、課題を再確認しながら、学びを深めていきたい。特別活動自体が、講義中心ではないので、本授業も講義ではなく、後半はグループワーク、ケースワークを中心に進める。そして、集団での活動の「楽しさ」を再確認できるような経験ができるように工夫したい。

⑸授業の流れ
第１回～第５回
集団を対象とするということについてイメージを持つため、集団・学級についての基礎的な理解を促すことを目指した。

（第１回）
オリエンテーション
特別活動の領域について図を用いて確認
→集団での活動を通して個性が伸びていくことについての体験をレポートに書いてもらう。
→それぞれに豊かな経験と振り返りをしていることを確認（農業クラブや体育祭、文化祭等での自己発見と自己実現の経験がある）

（第２回）
まず個人と集団との関係に意識をむけるため「ジョハリの窓」のワークを行った。
→自分のコミュニケーション特性を知り、集団の中で成長するイメージをつかむ。

→学生は周りと話をしながら、楽しそうに取り組む。
→時間があれば、グループごとに分かれて、自分たちのコミュニケーションの悩みなどについて話をする。
特に未知グループと、開放グループのメンバーに注目することも面白い。（今年はできなかった）

（第３回）
集団づくり・学級づくりの重要性について、集団づくりの課題として、学級崩壊や懲戒主義的生徒指導を位置づける
→生活の場、人間形成の場、学びの場としての学級の役割から、それに必要な要素について考えさせ、それを教師として重視する方針に組み込むように、学級づくりの方針を立てさせる。（その際、特別な配慮が必要な税とへの注目、生徒に関する情報の入手、共同体の中で身につけられる価値観、について説明）
→学級びらき、黄金の三日間等について解説、
→アイスブレーキングをやってみる。

（第４回）
集団づくりと学級づくりの課題について①学力②生徒指導③スクールカースト④無目的の４点から解説。
→社会性の低下の要因として集団の問題を位置づける。
→その上で、教師の指導に求められる観点を６つに整理して説明

（第５回）
集団づくりに影響をおよぼす教師の指導の力について、ヒドゥンカリキュラムを例に解説する。
→ケースワーク「教師の評価の方法による生徒集団への影響」
【事例】
高校教師 A は数学科のベテラン教師である（教員歴 25 年）。A は理数科クラスの担任をまかされていることもあって、理数系クラスの学生の国公立大学進学を熱心に指導している。A は自分のクラス以外にも文系の私立大学・専門学校進学を目指すクラスを担当しているが、そこでも国公立大学の進学用に準備した教材で授業をしている。
定期試験を一週間後に控えたある日、文系クラスの担任 B は、A の授業に対して、「国公立進学のクラスと同じ水準の問題を実施するのはおかしいのではないか」と生徒から意見が出ているということを他の数学科教員から聞いた。よく話をきいてみると、文系クラスの授業の中で A は、「このクラスでは AO 入試や推薦入試やなんかで、数学を使う人が少ない」と前置きし、「けれども、理数クラスの子達はこれだけ高度な問題をやっているということを君たちも知るべきだ」と言ったそうである。そして、試験の結果をクラス別に公表し、自分のクラスの平均点が高く、文系クラスの平均点が低かったことをどちらのクラスにも伝えた。平均点の違いは 25 点程であったが、最高点と最低点の差は 70 点にも及んでいたことも公表された。A は後日、B に「受験に数学を使わない生徒に数学のやる気を出してもらうためにそのようにした」と説明したらしいが、B は釈然としない思いで、クラスの生徒に何か説明しないといけないなと思っている。

!Question!
○A の指導の問題点について考えてみよう（ヒドゥンカリキュラムを意識して）

○A の指導は B のクラスの生徒にどのような教育効果をもたらしたか？

→ジェンダーの観点なども紹介

（第６回）
校則についてのグループディスカッション

２００７年４月２日
生活指導部

学年団の先生方へ

生活指導上の慣行や、申し合わせ事項です。また、太字やアンダーライン部分は、生徒に周知徹底してほしい事柄です。ＨＲで説明してください。
なお、疑問のあるものについては学年会議で問題提起してください。生指部で検討し、改正すべきものは職員会議に諮り改定したいと思います。

① **遅刻・欠席の場合は、必ず８時２０分までに学校に連絡する。**（原則保護者）
無断欠席の場合はその日のうちに家庭連絡をして注意を喚起してください。
早退は、生徒手帳の連絡欄に事前に保護者より記入、捺印が望ましい。

② **８時３０分の本鈴が鳴り終わった時点で教室にいない場合は、遅刻です。**（教室に荷物があっても、本人が教室にいない場合は遅刻です。）
ＨＲ前は職員室の出席簿立て、クラスボックス、連絡黒板を確認の上、本鈴が鳴る前に教室に入るようにしてください。また、クラスボックス等は終礼前にも確認するようにしてください。

③ 遅刻カウント表はクラスの掲示板に掲示し、その日のうちに記入するようにしてください。また、遅刻が２回の生徒には注意を喚起してください。
一ヶ月に遅刻が３回になった生徒は遅刻指導（＝早朝登校、保護者に連絡を！）になります。８：１０までの登校で２ポイント、８：２０までの登校で１ポイントとし、１０ポイントで終了となりますが、２週間以内に終わらせるよう指導してください。
一ヶ月の遅刻回数が６回を越えると、生指部長訓戒となります（保護者同伴）。
常習遅刻で指導にのらず目に余る者については、怠学行為・指導不服従として、懲戒規定に照らし厳しい指導を行います。常習遅刻者の８割以上が転退学や留年等になっています。

遅刻については全体の統一が重要です。８時３０分に遅刻をきちんとチェックする。また「事前に連絡すれば、遅刻のカウントをしない。」等、担任の裁量でおまけしたりしないようよろしくお願いします。配慮する場合は、定期的な通院等基準を統一してください。

早朝登校指導は、各学年職員室で学年（担任）団にチェックをお願いします。

④ いわゆる「置き本」は禁止しています。教科書、体操服等すべて毎日持って帰るよう指導してください。置いて帰った場合は、学年控え室に引き上げる等してください。
（体育館シューズのみ袋に入れ机にぶら下げても可）

提出物は「必ず期限までに出す。」というしつけを早い時期から身に付けさせてください。

頭髪については、担任指導の後、一定期間をおいても改善されない場合は、再登校指導の処置をとります。
服装違反についても、再登校指導の処置をとります。
（遅刻・頭髪・服装等、指導すべき点が出てきましたら、保護者との連絡を密にとるようにしてください。）
再登校指導は原則出停扱いですが、同一内容での２回目以降は教科の時間が欠課扱いになります。再登校後も改善がなされていない（不十分な）場合、再度の再登校指導も欠課扱いです。
（担任の出欠統計は、一回目から出席扱いです）

授業妨害については、教室から学年職員室へ出してください。教科担当（担任）による再三の指導を聞き入れない場合は生指部長訓告とし、それでも指導に従わない場合は停学とします。

座席は、新学期の間（連休明け、または第１中間考査ぐらいまで）は出席番号順に指定してください。座席表は２部作成し、出席簿の表紙裏と教卓に貼ってください。

携帯電話については、授業中には、「出さない、触らない、鳴らさない」ということでお願いします。出したり触ったりしていた場合は、教科担当預かりとしてください。担任経由で放課後返却してください。
プリクラ帳、おもちゃ、化粧品等も同様の処置をしてください。
考査中のトラブル防止のため、日頃からしつける必要があります。

お昼の各階の男女便所の喫煙防止立ち番は、前後半に分けて学年でお願いします。また、廊下ベランダの巡回も含まれます。

授業時間中の学年職員室当番は、学年でお願いします。適宜廊下等も巡回してください。

内気で消極的な生徒や孤立気味の生徒には、教育相談室の存在を早めに告げて、積極的に利用できるようにしてあげてください。

その他、わからないことは遠慮なく聞いてください。

担任によって、担当者によって指導にばらつきのあることを生徒は決して見逃しません。それは学校不信、教師不信の原因となります。ご協力よろしくお願いします。

→高校の校則を提示し、教師として説明することを前提として、校則の内容について詳しく話し合う。
→なぜそんな校則があるのか？理由は？合理性は？等話し合ったことをまとめながら、グループで代表（教師役）を決めて、次回ロールプレイング

（第７回・８回）
ロールプレイングを２回に分けて行う。
→年度初めにクラスに対して校則を説明する。
（感想）

（第９回）
ケースワーク
老人ホームでのレクリエーションの企画に関するケースについて、教師の関与に焦点づけて考える。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
ケースワーク①

授業：選択科目「福祉ボランティア論」
場所：実習室（上履きに履き替え、レクリエーション活動などができる部屋）

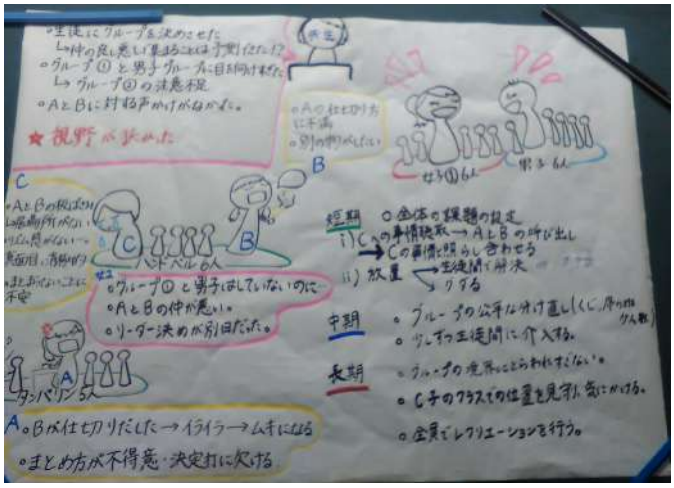
対象生徒：総合学科に所属する高校１年生で入学前に福祉を選択した生徒 23 名
生徒の概要：23 名のうち女子が 17 名を占めている。女子中心のクラスである。男子は６名と少数であり、いつも固まって行動している。女子 17 名のうち６名は活動的・社交的な者同士が集まっており（グループ①とする）、授業の中でも、男子数名とこのグループ①が私語を行ったり、指示を聞いていなかったりすることが多々ある。残りの女子 11 名（グループ②）は、授業への参加の態度でみればまちまちであるが、グループ①には属していないという理由で集まっているグループである。

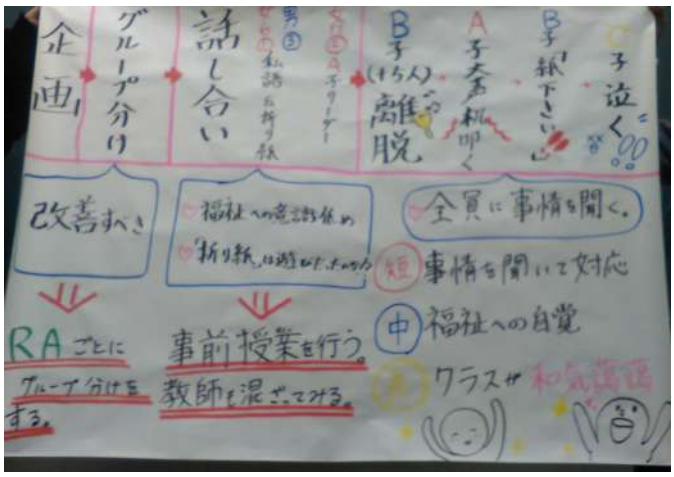
授業の内容：本時（３・４限）は、来月に訪問する予定の特別養護老人ホームにおいて、高齢者を対象にしたレクリエーション活動の内容を考える時間である。前時にグループ分け、班長決めをし、作業内容をメモするプリントをわたしている。生徒はグループに分かれて、高齢者のためにレクリエーションを企画し、その準備をすることになっている。教師は、授業の冒頭に黒板に訪問までのスケジュールを板書し、レクリエーションに利用できる物品を説明し、レクリエーションの目的、注意点等を指示し、後の時間は生徒の活動を支援することとなった。
授業の展開：レクリエーションを行うグループは、日頃のグループと同じように分かれた（グループ①・グループ②及び男子グループ）グループ①と男子グループは、授業の作業を進める気配はなく、私語をしたり、折り紙や落書きなどをしたりしながら、教師の指示をごまかしながら、遊んでいる。他方、グループ②は班長のＡ子がメンバーの提案を聞きながら企画の内容を考えている様子である。
問題の発生：授業の中盤で、グループ②に入っていたＢ子が、ハンドベルを取りに行き、グループの座席とは離れたところで、鳴らし出した。それに同調した５名が同じくハンドベルを鳴らしだし、曲を演奏しようとし出した。Ｂ子に加わった５名はハンドベルを机に並べだしたころで、グループ②の残りのメンバーと話していたＡ子が大声で何か言いながら机を叩いた。その後、Ｂ子が教師に、「先生、楽譜を書くので紙下さい！」と強い語調で言ってきた。教師はそれに応じて紙を渡し、Ｂ子達はそれに簡易な楽譜を書き出した。残されたグループ②の５名もタンバリン等を持ち出しているが、グループ②は別の場所に分割されたままである。相変わらずハンドベルを持ち出した女子は、ハンドベルに夢中になっている。ハンドベルの輪に加わっていたＣ子が突然泣き出した。

課題①：この状況の要因と背景について検討しよう
課題②：教師の指導について検討しよう
課題③：どのように指導していくべきか（短期的・中期的・長期的に）考えよう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（第 10 回）
ケースについてグループで話し合い、１つの回答を導き出す→模造紙とペンを使ってプレゼン資料を作る。





（第 11 回）
→質疑応答を交えながら、具体的な対策等を考えていく＋自分たちの想定を広げておくことの大切さに気づいてほしい（具体的な指導方法についても議論していく）
→だいたいのグループが、教師の指導不足、管理不足というような結論に至っていく（今年は、そうではない意見のところもあった）

→実際のレクリエーションの様子を VTR で視聴
結果としてできたものがどうであったか？を通して、特別活動の特徴をつかんでいく。（教師が放置すること、指導しすぎること、生徒の内側から出てくるもの、多様性・個性の発現のためには、、、、などなど）

（第 12 回）
ケースワークを踏まえて、特別活動の活動の内容について、考えていく。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
【とある保護者のつぶやき】

二人の息子の学芸会～保護者のつぶやき～

H が「学校が楽しくない」と言って泣く。彼が泣くなんてよっぽどやと思うから心配(._.)。どうも担任と合わないらしい。ベテランの女先生なんやけど、とにかく冗談言わない、誉めない、「～やりなさい」って常に命令口調、おたのしみ会や班活動がない（係の仕事はあるけど）。中でも H がショックなのは、学芸会の演目に全く面白みがないことだとか。他の学年はギャグを入れたり生徒のアイデアが生かされてて楽しそうなのに…というのが涙の原因。ちなみに学年のもう一人は新人の先生で発言力がないそうな。
う～む。確かに懇談でも、注意ばっかで全く良いところを言ってくれないから、私から「だけど彼は面白いこと好きで優しいんです」って言うたぐらい。でも、体罰なんかと違って、「ここを改善してほしい」「ここが間違ってます」って言いにくい。つまらな～い空気感があるだけというか何というか。H には４月からずっとストレスなんやけど、母に出来そうなことが思いつかん。友だちもみんな「先生おもんない」と言うてるらしいのが救いかな(´-ω-`)。

問題の学芸会に行ってきた～。

H（小３）の劇は、「オペレッタ　押入れの冒険」。
全員体操服で、身体の振り付けだけで表現する音楽劇で、すごく完成度が高かった。声も出てて歌も上手。よその学校でやったものをビデオで見て、脚本も全く同じものをやったらしい。だからか、演出が行き届いてる感じがした。

Y（小５）は「カッパのファッションショー」という創作劇。
手作りのカラフルな衣装で、ダンスあり、コントあり、地元ネタ満載で、自分たちで作った劇。完成度はいまいちで、グダグダ場面もあり、ギャグもスベったりトチったり･･･。でも、みんなめっちゃ楽しそうで、学年のいい雰囲気が伝わる。

H の嘆きがわかった気がする。
練習の時からずっと楽しくなかったんやね。言われたことをきちんとやるだけで。でも、あの完成度の高さを見ると、今日はきっと達成感を味わえたと思う。完璧をめざしてがんばるのも、学校では大事なこと。でもでも、楽しくなかったね…。やっぱり可哀相かも。

教育ってむずかしいな～(=_=)。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
→これを読んで、取り組みの質を上げることによる、生徒の成長と、生徒の自主性を尊重することによる生徒の成長について考えてみる。
→これとの関係で組体操の問題等も取り合えげる。

（第 13 回）
体験活動の意味
→青年期の学びにとっての体験の意味について、ルソーデューイ等の指摘から整理する。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

課題「教室から出て美しいものをとってくる」

15 分で、美しいものを持ってきて、皆の前でプレゼンをする。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

→「美しい」の概念は経験を通してしか得ることができない。人間は重要なものを経験から学んでいる。（経験から学ぶ能力への注目）
→経験による学びの障壁として「管理監視」「教えること」「完璧な生徒像」等を位置づける。

（第 14 回）
青年期の課題と特別活動について、
漫然と経験をさせるのではなく、青年を大人に引き上げるような材料が必要→大人になるとは？依存する力、助けを求める力が必要→そのための特別活動とは？

（第 15 回）
レポート
問 1.
特別活動の特徴とその指導の留意点を述べよ。必ず、学校教育の他領域の教育実践と比較しながら論じること。
問 2.
青年期の生徒にとって必要な能力と、その能力を伸ばすための指導という観点から、現在の特別活動の問題点を指摘し、どのように改善していけばよいか述べよ。